



3rd Career Development Seminar

自分のビジョンの実現のために、リーダーが次世代に求めるものを知ろう
～キャリア形成におけるメンターシップの重要性～

開催概要

「自分のキャリアを考えるために、上司、もしくは'今'を先導するリーダーが次世代に何を求めているのかを知りたい」と思いませんか？また、キャリアをより発展させるための1つの手段として、「メンターシップ」という概念があるのをご存知ですか？今回のセミナーでは、「自分のビジョンの実現のために、リーダーが次世代に求めるものを知ろう」をメインテーマとしています。「今後の社会において求められているリーダー像」や「メンターシップとは何か」を学び、それがどのようにキャリアの形成につながるのかを、リーダーの先生方とのインタラクティブなパネルディスカッションを通じて知ること、今後のキャリア形成・進路の選択に活かせるヒントをお持ち帰り頂ければと思っております。自分自身が納得できる今後のキャリア形成について考えてみたい医療者、医療系学生の皆さまのご参加を、お待ちしております。

プログラム

開会のごあいさつ

14:00-14:05 吉田庸子 国立病院機構熊本医療センター 内科系総合専修医

イントロダクション：“How to Connect your Career Development and mentorship”

14:05-14:35 Janis Apted Yadiny, MLS (Associate Vice President, Faculty Development, The University of Texas MD Anderson Cancer Center)

(通訳：松木絵里 (慶應義塾大学医学部血液内科、Harvard School of Public Health))

講演：「リーダーががん医療を担う次世代に求めるもの」

14:35-14:50 中村めぐみ (聖路加国際病院 教育研修部 副部長 がん看護専門看護師)

14:50-15:05 佐治重衡 (京都大学大学院医学研究科 標的治療腫瘍学講座 特定准教授)

15:05-15:20 佐谷秀行 (慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所遺伝子制御研究部門 教授)

司会：杉山直子 (測量地質健康保険組合健診センター長)、信濃裕美 (NPO 日本臨床研究支援ユニット)

休憩 10分

インタラクティブ・パネルディスカッション

15:30-16:20 Janis Apted Yadiny, MLS、佐谷秀行、佐治重衡、中村めぐみ、Naoto T. Ueno, MD, PhD, FACP (Professor of Medicine, Department of Breast Medical Oncology, MDA)

司会：堀之内秀仁 (国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 医長)、松田諭

閉会のごあいさつ

16:20-16:30 松田諭 (慶應義塾大学医学部 外科学 (一般・消化器))

日時：2014年3月21日 (金、祝日) 14:00～16:30

会場：慶應義塾大学病院 2号館 (新棟) 11階 大会議室

主催：慶應義塾大学大学院医学研究科がんプロフェSSIONAL養成基盤推進プラン

企画：Academy of Cancer Experts (ACE) Program

問い合わせ先：ACE事務局 secretariat@ace-program.jp



パネリスト紹介



中村めぐみ (看護師)

聖路加国際病院 教育研修部 副部長 がん看護専門看護師

聖路加看護大学および大学院修士課程修了。1996年日本看護協会にてがん看護専門看護師の認定を取得。この間、聖路加国際病院内科系一般病棟で勤務し、1998年緩和ケア病棟開設時より同病棟ナースマネージャーとなる。2001年より聖路加看護大学臨床教授として大学院がん看護学・緩和ケア上級実践コースの教育に携わる。2007年より看護管理室所属となり、がん看護専門看護師として主に緩和ケアチームと緩和ケア外来で専門性を発揮する。2012年より教育研修部副部長となる。本務を行いつつ、がんサバイバーやその家族のためのサポートプログラムの運営を継続している。2007年 The 1st TeamOncology Workshop に、2012年がん看護専門看護師海外研修 (UCSF/Stanford Medical Center) に参加。



佐治重衡 (医師・医学博士)

京都大学大学院医学研究科 標的治療腫瘍学講座 特定准教授

1992年岐阜大学医学部卒業。東京都立駒込病院、岐阜大学大学院、埼玉県立がんセンター研究所、カロリンスカ医科大学 (スウェーデン) 東京都立駒込病院乳腺外科・臨床試験科、M.D. アンダーソンがんセンター (米国・短期留学) 埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科准教授を経て2011年8月より現職。乳癌を専門とする腫瘍内科医として診療活動を行いながら、乳癌のホルモン療法・分子標的治療に関する基礎・臨床・トランスレーショナル研究を継続している。日本臨床腫瘍学会専門医・指導医・評議員、日本乳癌学会専門医・評議員、日本癌学会評議員



佐谷秀行 (医師・医学博士)

慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門 教授

1981年神戸大学医学部卒業、同大学脳神経外科研修医を経て、1983年より神戸大学大学院医学研究科 (博士課程) 入学、1987年修了。1987年カリフォルニア大学サンフランシスコ校・脳腫瘍研究センター研究員、1988年テキサス大学 M.D. アンダーソン癌センター・神経腫瘍部門 Assistant Professor。1994年熊本大学医学部腫瘍医学講座教授を経て、2007年より現職。研究テーマは、がん幹細胞の性状解析と、がんの再発・転移の分子機構解明。近年は、基礎研究に基づいたがん創薬に力を注いでいる。



Janis Apted Yadiny, MLS

Associate Vice President, Faculty Development, The University of Texas MD Anderson Cancer Center

カナダ、イギリス、スイス、チュニジア、アメリカなど、数多くの国で高等教育、医療および国際開発機構等に携わった経験を持つ。現職では、1500名の研究および臨床に携わる職員と、600名のポスドクフェローを対象に、総合的な Faculty Development Program (教育・研究に従事する医療者の研修プログラム) を計画、遂行する責任者である。

プログラムには、I*CARE (Interpersonal Communication and Relationship Enhancement for health care providers), Faculty Productivity and Organizing Services, Classrooms of the 21st Century teaching skills program, the Faculty Mentoring Program, Faculty Health and Well-being, the Junior Faculty Development Program, Faculty Mentoring Initiative, and the Faculty Leadership Academy 等が含まれる。また、所属する Faculty Development Department では、専門職のキャリア形成に関わる事柄について、1対1のキャリアアカウンティングや、各部門へのコンサルティングを行っている。MD アンダーソンの Faculty Development Program は全国的にも知られ、多くの病院や組織のモデルとなっている。



Naoto T. Ueno, M.D., Ph.D., FACP

Professor in the Department of Breast Medical Oncology, MD Anderson Cancer Center

Chief of the Section of Translational Breast Cancer Research

Executive Director of the Morgan Welch Inflammatory Breast Cancer Research Program and Clinic

1989年和歌山県立医科大学卒業。米国でがんの診療、トランスレーショナルリサーチに従事し、physician scientistとして活躍している。専門は、炎症性乳がん、トリプルネガティブ乳がん、腫瘍分子細胞学。現在、がんの治療効果を最大にするために人材育成とチーム医療推進にも力をいれ、Academy of Cancer Experts Program、Japan TeamOncology Program の Chair としても活躍中。コアバリューは、Truth and Honesty (真実と誠) Innovation (創造と変革) そして Loyalty (忠義)。